

# CA ControlMinder Premium Edition

リリースノート

12.6.03



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

## サードパーティに関する通知

CONTAINS IBM(R) 32-bit Runtime Environment for AIX(TM), Java(TM) 2  
Technology Edition, Version 1.4 Modules

© Copyright IBM Corporation 1999, 2002

All Rights Reserved

## サンプル スクリプトおよびサンプル SDK コード

CA ControlMinder 製品に含まれているサンプル スクリプトおよびサンプル SDK コードは、情報提供のみを目的として現状有姿のまま提供されます。これらは特定の環境で調整が必要な場合があるため、テストや検証を実行せずに実稼働システムにデプロイしないでください。

CA Technologies では、これらのサンプルに対するサポートを提供していません。また、これらのスクリプトによって引き起こされるいかなるエラーにも責任を負わないものとします。

## CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA ControlMinder Premium Edition
- CA ControlMinder
- CA Single Sign-On (CA SSO)
- CA Top Secret®
- CA ACF2™
- CA Audit
- CA Network and Systems Management (CA NSM、旧 Unicenter NSM and Unicenter TNG)
- CA Software Delivery (旧 Unicenter Software Delivery)
- CA Service Desk (旧 Unicenter Service Desk)
- CA User Activity Reporting (旧 CA Enterprise Log Manager)
- CA IdentityMinder

## ドキュメントの表記規則

CA ControlMinder のドキュメントには、以下の規則があります。

形式	意味
等幅フォント	コードまたはプログラムの出力
斜体	強調または新規用語
太字	表示されているとおりに入力する必要がある要素
スラッシュ (/)	UNIX および Windows のパスの記述で使用される、プラットフォームに依存しないディレクトリの区切り文字

また、本書では、コマンド構文およびユーザ入力の説明に（等幅フォントで）以下の特殊な規則を使用します。

形式	意味
斜体	ユーザが入力する必要のある情報
角かっこ ([]) で囲まれた文字列	オプションのオペランド
中かっこ ({} ) で囲まれた文字列	必須のオペランドセット
パイプ ( ) で区切られた選択項目	代替オペランド (1つ選択) を区切ります。 たとえば、以下の例は「ユーザ名またはグループ名のいずれか」を意味します。  <code>{username groupname}</code>
...	前の項目または項目のグループが繰り返し可能なことを示します
下線	デフォルト値
スペースに続く、行末の円記号 (¥)	本書では、コマンドの記述が 1 行に収まらない場合があります。このような場合、行末の空白とそれに続く円記号 (¥) は、そのコマンドが次の行に続くことを示します。 <b>注:</b> このような円記号はコピーしないでください。また、改行はコマンドに含めないようにしてください。これらの文字は、実際のコマンド構文の一部ではありません。

### 例: コマンドの表記規則

以下のコードは、本書でのコマンド表記規則の使用方法を示しています。

```
ruler className [props({all|{propertyName1[,propertyName2]...})]
```

この例の内容

- 標準的な等幅フォントで表示されているコマンド名 (`ruler`) は表示されているとおりに入力します。
- 斜体で表示されている `className` オプションは、クラス名 (`USER` など) のプレースホルダです。

- 2 番目の角かっこで囲まれた部分を指定しなくても、コマンドは実行できます。この部分は、オプションのオペランドを示します。
- オプションのパラメータ (props) を使用する場合は、キーワード *all* を選択するか、またはカンマで区切られたプロパティ名を 1 つ以上指定します。

## ファイル ロケーションに関する規則

CA ControlMinder のドキュメントには、ファイル ロケーションに関する以下の規則があります。

- *ACInstallDir* -- CA ControlMinder のデフォルトのインストール ディレクトリ。
  - Windows -- <インストールパス>
  - UNIX -- <インストールパス 2>
- *ACSharedDir* -- CA ControlMinder for UNIX で使用される、デフォルトのディレクトリ。
  - UNIX -- /opt/CA/AccessControlShared
- *ACServerInstallDir* -- CA ControlMinder エンタープライズ管理 のデフォルトのインストール ディレクトリ。
  - /opt/CA/AccessControlServer
- *DistServerInstallDir* -- デフォルトの配布サーバインストール ディレクトリ。
  - /opt/CA/DistributionServer
- *JBoss\_HOME* -- デフォルトの JBoss インストール ディレクトリ。
  - /opt/jboss-4.2.3.GA

## CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

# 目次

---

<b>第 1 章: ようこそ</b>	<b>11</b>
CA ControlMinder インストール メディア .....	12
すべてのエディションで 1 つのマニュアル セット .....	13
<b>第 2 章: 新機能と変更された機能</b>	<b>15</b>
このリリースで修正された問題 .....	15
<b>第 3 章: システム要件</b>	<b>17</b>
オペレーティング システムのサポート .....	17
CA ControlMinder エンドポイント管理 の要件 .....	17
UNIX エンドポイントの要件 .....	18
Windows エンドポイントの要件 .....	18
Policy Model データベースの要件 .....	19
<b>第 4 章: マニュアル</b>	<b>21</b>
ガイド .....	21
<b>第 5 章: FIPS 準拠</b>	<b>23</b>
FIPS 操作モード .....	23
FIPS 専用モードでサポートされないオペレーティング システム .....	23
FIPS 暗号化ライブラリ .....	24
使用される FIPS アルゴリズム .....	24
鍵と証明書ストレージ .....	25
影響を受ける機能 (UNIX) .....	25
影響を受ける機能 (Windows) .....	26
<b>第 6 章: 機能サポートの制限事項</b>	<b>29</b>
IPv6 のサポート .....	29
製品の商標変更の制限 .....	30
Windows エンドポイントの制限事項 .....	30
x64 機能サポートの制限事項 .....	31

IA64 での機能のサポート制限.....	31
Windows Server 2008 機能サポートの制限事項.....	32
SAN のサポート.....	33
McAfee Intercept バッファ オーバフロー.....	34
短いファイル名ルール (8.3 形式) がサポートされない.....	34
UNIX エンドポイントの制限事項.....	34
HP-UX での機能のサポート制限.....	34
HP-UX Itanium および RHEL Itanium で Unicenter 統合がサポートされない.....	35
Linux IA64 上で SAM エージェントがサポートされない.....	35
SAN のサポート.....	35
UNAB の制限事項.....	36
カスタマイズ スクリプトは複数のオプションの更新をサポートしない.....	36
一方向の信頼関係を持つドメイン環境でのアカウント パスワード形式.....	36
UNAB が Linux IA64 上でサポートされない.....	36
UNAB が FIPS140-2 および IPV6 に対応していない.....	36

## 第 7 章: インストールに関する考慮事項 37

サポートされるインストール言語.....	37
エンドポイント コンポーネントのリリースのみ.....	37
Windows エンドポイントに関する考慮事項.....	38
Windows Server 2008 上でのインストール、アンインストール、アップグレード時に再起動メッセージが表示される.....	38
UNIX エンドポイントに関する考慮事項.....	38
Solaris 8 および 9 に CA ControlMinder をインストールする際の考慮事項.....	38
AIX 6.1 では、CA ControlMinder の起動に TL3 以降が必要です。.....	39
Linux390 のメッセージキューに J2SE バージョン 5.0 が必要.....	39
x86_64bit Linux の互換性ライブラリがない.....	39
CA ControlMinder をインストールまたはアンインストールすると UNAB が再起動する.....	39
CA ControlMinder および UNAB を新しい Solaris ゾーンへ伝達.....	40
CA ControlMinder を Solaris 11 にインストールする際の制限事項.....	40
UNAB エンドポイントインストールに関する考慮事項.....	40
CA_LIC をデフォルト以外のディレクトリにインストールすると、エラーメッセージが表示される.....	41
UNAB SELinux が Red Hat Enterprise Linux 5.8 上で有効な場合に、ユーザ ログインが失敗する.....	41
Solaris 8 および 9 に UNAB をインストールする際の考慮事項.....	42
UNAB for Linux 390 のリモート管理用に J2SE バージョン 5.0 が必要.....	42

## 第 8 章: アップグレードに関する留意事項 43

アップグレード元のバージョン.....	43
---------------------	----

Windows エンドポイントのアップグレードに関する考慮事項 .....	43
アップグレード時に再起動が必要 .....	44
データベースへのデフォルト アクセスの変更 .....	44
UNIX エンドポイントのアップグレードに関する考慮事項 .....	44
デフォルトのインストール場所 .....	44
FIPS 140-2 ライブラリのアップグレード .....	45
UNIX でのシステム全体の監査モードのアップグレード .....	45
認証でのリソース グループの所有権の認識 .....	45
優先度が下げられた syslog メッセージ .....	46

## 第 9 章: 一般的な考慮事項 47

Windows エンドポイントに関する考慮事項 .....	47
Windows Server 2008 で管理者として実行による CA ControlMinder の開始 .....	47
アンインストールで CA ライセンス ファイルが削除されない .....	47
UNAB に関する考慮事項 .....	47
SELinux が有効な場合に、ログイン時にホーム ディレクトリが作成されない .....	48
パスワード変更の試行が Red Hat Linux 上で失敗する .....	48
移行後のローカル ユーザ アカウントの無効化 .....	49
unab_refresh_interval トークンの値は短い間隔に設定しない .....	49
Kerberos dns_lookup_realm を True に設定しない .....	49
UNAB ユーザが指定されたパスワード ポリシーに従ってアカウント パスワードを変更できな い .....	49
sepass と UNAB エンドポイントの統合 .....	50
Active Directory アカウントを使用した UNAB へのログイン .....	50
UNAB がインストールされている場合、管理者アカウントを使用して CA ControlMinder for UNIX にログインできない .....	51

## 第 10 章: 既知の問題 53

インストールの既知の問題 .....	53
Windows エンドポイントのインストールの既知の問題 .....	53
UNIX エンドポイントのインストールの既知の問題 .....	54
UNAB エンドポイントのインストールの既知の問題 .....	55
アップグレードの既知の問題 .....	56
Windows エンドポイントのアップグレードの既知の問題 .....	56
UNIX エンドポイントのアップグレードの既知の問題 .....	57
一般的な既知の問題 .....	57
Windows エンドポイントの既知の問題 .....	57
UNIX エンドポイントの既知の問題 .....	59
UNAB の既知の問題 .....	64

---

マニュアルの既知の問題.....	70
------------------	----

# 第 1 章: ようこそ

---

CA ControlMinder Premium Edition 12.6.03 へようこそ。本書では、新しい拡張機能、既存機能の変更内容、オペレーティング システムのサポート、システム要件、ドキュメント情報、インストールの考慮事項と一般的な考慮事項、公開されているソリューション、および CA ControlMinder Premium Edition の既知の問題について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA ControlMinder インストールメディア \(P. 12\)](#)

[すべてのエディションで 1 つのマニュアルセット \(P. 13\)](#)

## CA ControlMinder インストール メディア

CA ControlMinder コンポーネントは、以下のイメージファイルから入手できます。

エンドポイント コンポーネントは、以下のイメージファイルに含まれています。

- CA ControlMinder Endpoint Components for Windows

エンドポイント コンポーネントを含む、CA ControlMinder for Windows のインストールファイルを収録しています。具体的には、スタンドアロンの Windows コンピュータ用の CA ControlMinder のコア機能、Policy Model のサポートなどコア機能拡張用の追加の実行可能ファイルとライブラリ、ランタイム SDK ファイル、ライブラリと API のサンプル、メインフレームのパスワード同期、およびスタック オーバーフロー防止機能 (STOP) を収録しています。

- CA ControlMinder Endpoint Components for UNIX

エンドポイント コンポーネントを含む、CA ControlMinder for UNIX のインストールファイルを収録しています。これらのファイルには、スタンドアロン UNIX コンピュータに必要な CA ControlMinder のコア機能、Policy Model のサポートなどコア機能拡張用の追加のバイナリおよびスクリプト、API のライブラリおよびサンプル、メインフレームのパスワード同期、および STOP (スタック オーバフロー防止機能) を収録しています。

このイメージファイルには CA ControlMinder エンタープライズ管理で使用する UNAB インストールファイルも含まれています。

## すべてのエディションで1つのマニュアルセット

両方のエディションに対して同じドキュメントを提供しています。そのため、一部のガイドのいくつかのセクションは CA ControlMinder Premium Edition にのみ適用されます。以下に、ドキュメントが CA ControlMinder にどう適用されるかについて説明します。

- リリースノート

このマニュアルの一部の情報は CA ControlMinder Premium Edition 機能にのみ適用されます。

- 実装ガイド

このマニュアルの一部の情報は CA ControlMinder Premium Edition 機能にのみ適用されます。

- エンタープライズ管理ガイド

このマニュアル全体が CA ControlMinder Premium Edition にのみ適用されます。

- Upgrade Guide

このマニュアルの一部の情報は CA ControlMinder Premium Edition 機能にのみ適用されます。

- 実装ガイド

このマニュアル全体が CA ControlMinder Premium Edition に適用されます。

- Windows エンドポイント管理ガイド

このマニュアル全体が CA ControlMinder に適用されます。

- UNIX エンドポイント管理ガイド

このマニュアル全体が CA ControlMinder に適用されます。

- リファレンスガイド

このマニュアルの一部の情報は CA ControlMinder Premium Edition 機能にのみ適用されます。

- selang リファレンス ガイド  
このマニュアルの一部の情報は CA ControlMinder Premium Edition 機能にのみ適用されます。
- トラブルシューティング ガイド  
このマニュアルの一部の情報は CA ControlMinder Premium Edition 機能にのみ適用されます。

用語を簡略化するために、本書の全体を通してこの製品を CA ControlMinder と呼びます。

## 第 2 章：新機能と変更された機能

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[このリリースで修正された問題 \(P. 15\)](#)

### このリリースで修正された問題

このリリースに含まれている修正は、**Release FIXLIST** に記載されています。CA サポートの [[CA ControlMinder 最新メンテナンス リリース](#)] ページから FIXLIST にアクセスできます。



## 第 3 章: システム要件

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[オペレーティング システムのサポート](#) (P. 17)

[CA ControlMinder エンドポイント管理の要件](#) (P. 17)

[UNIX エンドポイントの要件](#) (P. 18)

[Windows エンドポイントの要件](#) (P. 18)

[Policy Model データベースの要件](#) (P. 19)

### オペレーティング システムのサポート

サポートされているオペレーティング システムのリストについては、[CA サポート](#) サイト上の CA ControlMinder 製品ページで提供されている CA ControlMinder Compatibility Matrix を参照してください。

### CA ControlMinder エンドポイント管理の要件

CA ControlMinder エンドポイント管理 コンピュータの最小要件は、以下のとおりです。

- プロセッサ - (Windows) Pentium PC 2.66 GHz
- メモリ - 2 GB の RAM
- 使用可能なディスク領域 - 2 GB (インストール ディレクトリ)、3 GB (Windows : %TEMP%、UNIX : /tmp)

さらに、以下のソフトウェアを CA ControlMinder エンドポイント管理 コンピュータにインストールします。

- **JDK** - Java Development Kit (JDK) 1.7 以降
- **アプリケーション サーバ** - JBoss Application Server バージョン 4.2.3.GA
- **CA ControlMinder** - エンドポイント インストールの最新バージョン

エンドユーザのコンピュータでは、1024 x 768 ピクセル以上の画面解像度と以下の Web ブラウザが必要です。

- **Windows** - Microsoft Internet Explorer 6.x、7.x、8.x、または Mozilla Firefox 2.x、3.0、3.5
- **Linux** - Mozilla Firefox 2.x、3.0、または 3.5

## UNIX エンドポイントの要件

CA ControlMinder UNIX エンドポイントの最小要件

- **メモリ** - 1 GB の RAM (2 GB 推奨)
- **使用可能なディスク領域** - 250 MB (標準インストールでは 300 MB)

上記のほかに、CA ControlMinder データベース用の空きディスク領域が必要です。このデータベースは、ユーザとユーザグループ、保護ファイルとその他のリソース、およびリソースに対する制限付きアクセスを許可する権限が記述されたレコードのリポジトリです。たとえば、データベースに 1,000 人のユーザ、1,000 個のファイル、500 種類のアクセスルールを格納する場合は、約 2 MB のディスク領域が必要です。

## Windows エンドポイントの要件

CA ControlMinder Windows エンドポイントの最小要件

- **プロセッサ** - Intel Pentium 4 1.6 GHz 搭載 PC
- **メモリ** - 1 GB RAM
- **利用可能なディスク領域** - 100 MB

さらに、CA ControlMinder データベース用のディスク領域も必要です。たとえば、データベースに 1,000 人のユーザ、1,000 個のファイル、500 種類のアクセスルールを格納する場合は、約 2 MB のディスク領域が必要です。

## Policy Model データベースの要件

エンドポイントのディスク領域の要件に加えて、ホスト上に作成する Policy Model ごとに、追加のディスク領域も必要になります。各 Policy Model にはデータベースが含まれているため、CA ControlMinder データベースに対して行ったのと同様に、必要な領域を計算する必要があります。

すべての Policy Model データベース (PMDB) がすでに作成されている状態でアップグレードを行う場合、事前に各 PMDB が `ACInstallDir/policy_model_path/pmdb_name` ディレクトリで使用する領域を記録してください。各 PMDB をアップグレードするのに必要な追加のディスク領域を見積もるには、以下の計算式を使用します。

- `ACInstallDir/policies/pmdb_name/subscribers.dat` (サイズ) x 2
- `ACInstallDir/policies/pmdb_name/updates.dat` (サイズ) x 5 + 1000 KB



## 第 4 章: マニュアル

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ガイド](#) (P. 21)

### ガイド

CA ControlMinder Premium Edition r12.6.01 には、以下のガイドがあります。

- リリース ノート
- 実装ガイド
- Windows エンドポイント管理ガイド
- UNIX エンドポイント管理ガイド
- エンタープライズ管理ガイド
- 統合ガイド
- アップグレードガイド
- リファレンス ガイド
- selang リファレンス ガイド
- トラブルシューティング ガイド

注: PDF ファイルを表示するには、PDF (Portable Document Format) 閲覧ソフトウェアをダウンロードしてインストールする必要があります。CA ControlMinder のマニュアルを表示するには、Adobe Reader 7.0.7 以降が必要です。Adobe Reader をコンピュータにインストールしていない場合は、Adobe 社の Web サイトからダウンロードしてインストールしてください。

CA ControlMinder のマニュアルは、PDF 版のガイドとしてだけでなく、HTML 形式でも提供されています。また、オンラインヘルプにはさまざまな Web ベースのインターフェースからアクセスできます。



# 第 5 章: FIPS 準拠

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[FIPS 操作モード \(P. 23\)](#)

[FIPS 専用モードでサポートされないオペレーティング システム \(P. 23\)](#)

[FIPS 暗号化ライブラリ \(P. 24\)](#)

[使用される FIPS アルゴリズム \(P. 24\)](#)

[鍵と証明書のストレージ \(P. 25\)](#)

[影響を受ける機能 \(UNIX\) \(P. 25\)](#)

[影響を受ける機能 \(Windows\) \(P. 26\)](#)

## FIPS 操作モード

CA ControlMinder には、FIPS 専用モードと通常モードの 2 種類の FIPS 操作モードがあります。FIPS 専用モードでは、CA ControlMinder は FIPS 140-2 準拠の暗号化機能のみを使用します。これは、CA ControlMinder 機能の一部は FIPS 専用モードでは無効になることを意味します。通常モードでは、CA ControlMinder は FIPS 140-2 準拠の暗号化機能と FIPS 非準拠の機能の両方を使用します。

注: FIPS 専用モードと通常モードを切り替えるには、`crypto` セクションの `fips_only` 環境設定を使用します。

## FIPS 専用モードでサポートされないオペレーティング システム

FIPS 専用モードは、以下の CA ControlMinder サポート対象オペレーティング システム アーキテクチャではサポートされていません。

- Linux s390
- Linux Itanium (IA64)
- Solaris x64
- Windows Itanium (IA64)

## FIPS 暗号化ライブラリ

FIPS 専用モードでは、CA ControlMinder は CAPKI 暗号化ライブラリを使用します。UNIX システムの場合、パスワード暗号化（「crypt」方式）用に OS の暗号化ライブラリが使用されます。通常モードでは、CA ControlMinder は非 FIPS 暗号化ライブラリに加えて CAPKI 4.1.3 暗号化ライブラリを使用します。

## 使用される FIPS アルゴリズム

CA ControlMinder コンポーネントは、以下の暗号化アルゴリズムを使用します。コンポーネントの種類が異なれば、使用されるアルゴリズムの種類も異なります。

- FIPS 専用モードの場合
  - SSL (TLS 1.0) - クライアント/サーバ通信
  - CBC モードの AES - PMD 更新ファイルの暗号化 (Windows) 、双方向パスワード履歴 (Windows)
  - SHA-1 - 単方向パスワード暗号化 (Windows) 、trusted プログラム、ポリシーのシグネチャ (拡張ポリシー管理)
- 通常モードの場合
  - CA ControlMinder r8 SP1 暗号化ライブラリ (DES、Triple DES、AES、MD5 など)
  - SSL (SSL V2、SSL V3、および TLS 1.0) - クライアント/サーバ通信
  - SHA-1 (CAPKI) - trusted プログラムのシグネチャ、ポリシーのシグネチャに対して使用
  - AES (CAPKI) - 双方向パスワード履歴の処理時のパスワード認証用に使用

## 鍵と証明書のストレージ

CA ControlMinder は、以下のように鍵と証明書を保管します。

- 対称鍵は、eTrust Access Control r8 SP1 と同様に保管されます。
- 証明書（所有者の証明書、秘密鍵、ルート証明書）はファイルシステムで保管され、CA ControlMinder によって保護されます。

注: CA ControlMinder は CA ControlMinder の対称鍵（共通鍵）を使用する AES 対称暗号化（CAPKI ライブラリ）に基づいて、秘密鍵を暗号化します。

## 影響を受ける機能 (UNIX)

FIPS 操作モードは、CA ControlMinder の以下の UNIX 向け機能に影響を及ぼす可能性があります。

機能	非 FIPS モード	FIPS モード
PMD 更新ファイル暗号化	デフォルト対称鍵暗号化（双方向）	無効
trusted プログラム	CAPKI SHA-1 および MD5	CAPKI SHA-1 のみ
双方向パスワード暗号化	デフォルト対称鍵暗号化	無効
単方向パスワード暗号化	オペレーティング システムの crypt/bigcrypt 方式	オペレーティング システムの crypt/bigcrypt 方式
PMD TNG コマンド	デフォルト対称鍵暗号化	無効
CA ControlMinder TNG デモン	デフォルト対称鍵暗号化	無効
LDAP パスワード暗号化使用 (sebuildla -u -n)	デフォルト対称鍵暗号化	無効
LDAP パスワード暗号化生成 (seldapcred)	デフォルト対称鍵暗号化	無効
TCP 通信	デフォルト対称鍵暗号化（双方向）または SSL V2、SSL V3、および TLS V1 の CAPKI ソケット	TLS V1 の CAPKI ソケット

## 影響を受ける機能 (Windows)

機能	非 FIPS モード	FIPS モード
seversion ユーティリティ	CAPKI SHA-1	CAPKI SHA-1
trusted プログラム (watchdog および seretrust)	CAPKI SHA-1	CAPKI SHA-1
拡張ポリシー管理ポリシー 配布	CAPKI SHA-1 シグネチャおよび下 位互換性用の CA ControlMinder 内部 SHA-1 シグネチャ	CAPKI SHA-1 シグネチャのみ
selogrd 暗号化	デフォルト対称鍵暗号化および MD5	無効
sechkey 鍵変更	デフォルト対称鍵暗号化	無効
iRecorder ログ ファイル シ グネチャ	MD5 暗号化	無効
レポート エージェント	有効	無効
SAM エージェント	有効	無効
DMS	有効	UNAB エンドポイント管理無効

注: FIPS 操作モードの結果としてある機能が無効になると、関連するプログラムはエラーメッセージを出力して終了するか、非対話式プロセスが発生している場合はエラーメッセージをシステムログに書き込みます。  
例: レポート エージェントまたは SAM エージェント。

## 影響を受ける機能 (Windows)

FIPS 操作モードは、CA ControlMinder の以下の Windows 向け機能に影響を及ぼす可能性があります。

機能	非 FIPS モード	FIPS モード
PMD 更新ファイル暗号化	デフォルト対称鍵暗号化 (双方 向)	CAPKI AES 対称鍵暗号化
パスワード履歴 (非双方向)	CAPKI SHA-1 として保存  CAPKI SHA-1 によるパスワード認 証、および暗号化の失敗	CAPKI SHA-1 として保存  CAPKI SHA-1 によるパスワード 認証のみ

機能	非 FIPS モード	FIPS モード
パスワード履歴 (双方向)	デフォルト対称鍵暗号化 デフォルト対称鍵暗号化による パスワード認証	CAPKI AES 対称鍵暗号化 CAPKI AES によるパスワード認 証のみ
sechkey 鍵変更、パスワード 履歴	デフォルト対称鍵暗号化による パスワード履歴の復号化および 暗号化	CAPKI AES 対称鍵暗号化による パスワード履歴の復号化および 暗号化
sechkey 鍵変更、ポリシー モデル	デフォルト対称鍵暗号化による Policy Model 更新ファイルの復号 化および暗号化	CAPKI AES 対称鍵暗号化による Policy Model 更新ファイルの復 号化および暗号化
trusted プログラム	CAPKI SHA-1 および MD5	CAPKI SHA-1 のみ
メインフレームのパスワー ド同期	有効	無効
iRecorder	有効	無効
TNG 統合	有効	無効
拡張ポリシー管理ポリシー 配布	CAPKI SHA-1 シグネチャおよび下 位互換性用の CA ControlMinder 内部 SHA-1 シグネチャ	CAPKI SHA-1 シグネチャのみ
レポート エージェント	有効	無効
SAM エージェント	有効	無効
DMS	有効	UNAB エンドポイント管理無効

注: FIPS 操作モードの結果としてある機能が無効になると、関連するプログラムはエラーメッセージを出力して終了するか、非対話式プロセスが発生している場合はエラーメッセージをシステムログに書き込みます。  
例: レポート エージェントまたは SAM エージェント。

以下の点も考慮する必要があります。

- 非 FIPS から FIPS に移行した場合、Policy Model は古いコマンドを読み取ることができなくなります。
- FIPS から非 FIPS に移行した場合、Policy Model は古いコマンドを読み取ることができます。
- 非双方向パスワード履歴では、FIPS モードで crypt を使用しない場合でも影響はありません。crypt は、下位互換性のみを目的として使用されます。
- 双方向パスワード履歴では、非 FIPS から FIPS に移行すると、CA ControlMinder では古いパスワードの復号化は実行できなくなります。

# 第 6 章：機能サポートの制限事項

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[IPv6 のサポート \(P. 29\)](#)

[製品の商標変更の制限 \(P. 30\)](#)

[Windows エンドポイントの制限事項 \(P. 30\)](#)

[UNIX エンドポイントの制限事項 \(P. 34\)](#)

[UNAB の制限事項 \(P. 36\)](#)

## IPv6 のサポート

CA ControlMinder は、IPv4 のみの環境、IPv6 のみの環境、または IPv4 と IPv6 両方の混在環境で動作します。

注：（UNIX）selogrd と selogrcd は、IPv6 のみの環境では動作しません。

CA ControlMinder は現在、IPv6 ネットワーク上でのネットワーク アクセス制御をサポートしていません。この結果、HOST、CONNECT、および TCP クラスに影響が及びます。

CA ControlMinder に対しては、IPv6 形式で IP アドレスを指定できます。ただし、HOSTNET クラス レコードの mask と match 部分には、IPv4 形式でアドレスを指定する必要があります。

## 製品の商標変更の制限

以下の製品コンポーネントで、商標が **CA ControlMinder** に変更されました。

- インストール メッセージ
- ユーティリティメッセージ
- ユーザ インターフェースのページ タイトル
- 表示名
- ログイン画面

以下の製品コンポーネントでは商標は変更されず、**CA Access Control** を使用します。

- 製品のパス名
- **Selang** コマンド プロンプト
- 製品およびプログラム ファイル名
- レジストリ エントリ
- パッケージ名

## Windows エンドポイントの制限事項

このセクションでは、**Windows** エンドポイントの機能サポートの制限について説明します。

## x64 機能サポートの制限事項

以下は Windows 2003 x64 に関する既知の制限事項です。

- Unicenter TNG の移行と統合
- メインフレームのパスワード同期
- SurrogateInterceptionMode が「1」に設定されている場合の、インパーソネーションインターセプト (SURROGATE クラスの機能)

**重要:** インパーソネーションインターセプトは、デフォルトで、RunAs プラグイン (SurrogateInterceptionMode を「0」に設定) を使用して、x64、IA64 および x86 プラットフォームでサポートされています。

**注:** SurrogateInterceptionMode レジストリ設定の詳細については、「リファレンスガイド」を参照してください。

## IA64 での機能のサポート制限

以下の機能は、IA64 プラットフォームではサポートされていません。

- Unicenter TNG の移行と統合
- メインフレームのパスワード同期
- STOP
- レポート エージェント
- SAM エージェント
- SSL
- FIPS 140-2 準拠

## Windows Server 2008 機能サポートの制限事項

以下は Windows Server 2008 に関する既知の制限事項です。

- SurrogateInterceptionMode が「1」に設定されている場合の、インパーソネーションインターセプト (SURROGATE クラスの機能)

**重要:** インパーソネーションインターセプトは、デフォルトで、RunAs プラグイン (SurrogateInterceptionMode を「0」に設定) を使用して、x64、IA64 および x86 プラットフォームでサポートされています。

**注:** SurrogateInterceptionMode レジストリ設定の詳細については、「リファレンスガイド」を参照してください。

## SAN のサポート

CA ControlMinder を以下にインストールしたとき、CA ControlMinder は SAN (Storage Area Network) 環境をサポートします。

- ローカルファイルシステム。SAN に 1 つのホストからアクセス可能な場合、それを使用して SAN 上のファイルを保護します。

**注:** SAN に複数のホストからアクセス可能な場合は、SAN にアクセス可能なホストごとに CA ControlMinder をインストールし、各インストールを使用して SAN 上のファイルを保護します。

- SAN のディスク。以下の制限事項があります。
  - CA ControlMinder のドライバは、ローカルファイルシステムにインストールする必要があります。
  - コンピュータを起動または再起動するたびに、SAN のディスク上で CA ControlMinder を手動で起動する必要があります。コンピュータを起動または再起動したときに、CA ControlMinder は自動的に起動しません。

**注:** SAN ディスク上に CA ControlMinder をインストールする場合のみ、上記の条件が適用されます。ローカルファイルシステムに CA ControlMinder をインストールし、それを使用して SAN 上のファイルを保護する場合、コンピュータを再起動するたびに CA ControlMinder を手動で起動する必要はありません。

SAN が複数のホストからアクセス可能で CA ControlMinder が SAN 上にインストールされているときに、CA ControlMinder を別のホストから SAN 上の同じ場所にインストールしたい場合は、開始する前に以下を考慮してください。

- CA ControlMinder の新規インストールは CA ControlMinder の既存のインストールを置き換え、既存の CA ControlMinder 構成ファイルおよびデータベースを上書きします。
- 新規インストールを開始する前に、CA ControlMinder の既存のインストールを停止する必要があります。

## McAfee Enterccept バッファ オーバフロー

CA ControlMinder の STOP 機能は McAfee Enterccept のバッファ オーバフロー技術と互換性がありません。

CA ControlMinder の STOP 機能または McAfee Enterccept バッファ オーバフロー保護機能のどちらかを無効にしてください。

## 短いファイル名ルール(8.3 形式)がサポートされない

CA ControlMinder では、短いファイル名 (8.3 形式) として作成されたルールはサポートされません。以下のクラスのいずれかを定義する場合、ファイルまたはディレクトリの完全パス名を入力する必要があります。

FILE、PROGRAM、PROCESS、SECFILE、SPECIALPGM

以下に、完全パス名を使用したルールの例を示します。

```
nr file ("C:%program files%text.txt")
```

以下に、サポートされていない短いパス名を使用したルールの例を示します。

```
nr file ("C:%progra~1%test.txt")
```

## UNIX エンドポイントの制限事項

このセクションでは、UNIX エンドポイントの機能サポートの制限について説明します。

### HP-UX での機能のサポート制限

以下は、HP-UX オペレーティング システム上での UNAB および CA ControlMinder の既知の制限事項です。

- seversion ユーティリティで SHA-1 シグネチャが表示されません。

## HP-UX Itanium および RHEL Itanium で Unicenter 統合がサポートされない

Unicenter 統合は、HP-UX Itanium (IA64) および Red Hat Linux Itanium IA64 ではサポートされていません。

## Linux IA64 上で SAM エージェントがサポートされない

SAM エージェントは、Linux Itanium (IA64) 上ではサポートされていません。インストール時の選択にかかわらず、CA ControlMinder は SAM エージェントをこれらのオペレーティングシステム上にインストールしません。

**注:** UNAB は Linux IA64 上でもサポートされていません。

## SAN のサポート

ローカルファイルシステムに CA ControlMinder をインストールし、SAN 上のファイルを保護するためにそれを使用する場合、また CA ControlMinder がインストールされた単一ホストから SAN にアクセス可能な場合に CA ControlMinder は SAN (storage area network) 環境をサポートします。

**注:** SAN に複数のホストからアクセス可能な場合、SAN にアクセス可能なホストごとに CA ControlMinder をインストールし、各インストールを使用して SAN 上のファイルを保護します。

SAN が複数のホストからアクセス可能で CA ControlMinder が SAN 上にインストールされているときに、CA ControlMinder を別のホストから SAN 上の同じ場所にインストールしたい場合は、開始する前に以下を考慮してください。

- CA ControlMinder の新規インストールは CA ControlMinder の既存のインストールを置き換え、既存の CA ControlMinder 構成ファイルおよびデータベースを上書きします。
- 新規インストールを開始する前に、CA ControlMinder の既存のインストールを停止する必要があります。

**注:** CA ControlMinder を SAN 上にインストールし、CA ControlMinder が接続されている複数のホストから CA ControlMinder を実行したときの動作は不明です。

## UNAB の制限事項

このセクションでは、UNAB エンドポイントの機能サポートの制限について説明します。

### カスタマイズ スクリプトは複数のオプションの更新をサポートしない

UNAB のカスタマイズされたインストール スクリプトは、複数のオプションの更新をサポートしません。インストール スクリプトを 2 回カスタマイズする必要があります。1 回目にライセンスを受理して、次にインストール オプションをカスタマイズします。

### 一方向の信頼関係を持つドメイン環境でのアカウント パスワード形式

uxconsole ユーティリティを使用して、登録ドメインとは異なるドメインの Active Directory アカウント パスワードを変更する場合、以下のコマンド形式を使用する必要があります。

```
uxconsole -krb -passwd user@DOMAIN
```

**重要:** ドメイン名は大文字で表記する必要があります。

### UNAB が Linux IA64 上でサポートされない

現在、Linux IA64 オペレーティング システム上に UNAB をインストールすることはできません。

### UNAB が FIPS140-2 および IPV6 に対応していない

現在、UNAB は FIPS140-2 および IPV6 に対応していません。

# 第 7 章: インストールに関する考慮事項

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[サポートされるインストール言語 \(P. 37\)](#)

[エンドポイント コンポーネントのリリースのみ \(P. 37\)](#)

[Windows エンドポイントに関する考慮事項 \(P. 38\)](#)

[UNIX エンドポイントに関する考慮事項 \(P. 38\)](#)

[UNAB エンドポイント インストールに関する考慮事項 \(P. 40\)](#)

## サポートされるインストール言語

CA ControlMinder のインストール言語を指定できます。以下の言語 ID はサポート対象になっているので、それに対応する言語を指定できます。

CA ControlMinder for Windows、CA ControlMinder for UNIX および UNAB は、以下の言語をサポートします。

- 1033 - 英語
- 1041 - 日本語
- 1042 - 韓国語
- 2052 - 中国語（簡体字）

## エンドポイント コンポーネントのリリースのみ

CA ControlMinder のこのリリースには、エンドポイント コンポーネントのみが含まれます。本リリースには以下のエンドポイント コンポーネントが含まれます。

- CA ControlMinder Endpoint for UNIX
- CA ControlMinder Endpoint for Windows
- UNAB Endpoint

## Windows エンドポイントに関する考慮事項

このセクションでは、Windows エンドポイントへの CA ControlMinder のインストール時に考慮する必要がある項目について説明します。

### Windows Server 2008 上でのインストール、アンインストール、アップグレード時に再起動メッセージが表示される

Windows Server 2008 上で CA ControlMinder のインストール、アンインストール、アップグレードを行う場合、プロセス完了後に再起動が必要なことを通知するダイアログボックスが表示されます。続行するには、[OK] を選択してダイアログボックスを閉じます。

## UNIX エンドポイントに関する考慮事項

このセクションでは、UNIX エンドポイントへの CA ControlMinder のインストール時に考慮する必要がある項目について説明します。

### Solaris 8 および 9 に CA ControlMinder をインストールする際の考慮事項

Solaris 8、Solaris 9 に該当

Solaris 8 および Solaris 9 オペレーティングシステム上で、ネイティブパッケージインストールを使用して CA ControlMinder をインストールするには、インストールパッケージを抽出する前に、以下の手順を完了します。

1. 一時ディレクトリにインストールパッケージをコピーします。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
zcat _SOLARIS_126.tar.Z | tar xof -  
rm -f CAeAC/install/depend
```

3. /CAeAC/pkgmap ファイルを開き、'1 i depend' から始まる行を見つけます。
4. この行を削除し、ファイルを保存します。

これでパッケージをカスタマイズし、CA ControlMinder をインストールできるようになりました。

## AIX 6.1 では、CA ControlMinder の起動に TL3 以降が必要です。

### AIX 6.1 に該当

CA ControlMinder を AIX 6.1 にロードするには、TL3 以降がインストールされていることを確認します。

## Linux390 のメッセージ キューに J2SE バージョン 5.0 が必要

Linux s390 および s390x エンドポイント上でメッセージ キュー機能を使用するには、J2SE バージョン 5.0 以降がエンドポイントにインストールされていることを確認します。メッセージ キュー機能によって、レポートデータをレポート ポータルへ送信し、監査データを CA Enterprise Log Manager へ送信することができます。

注: accommon.ini ファイル内の java\_home 環境設定を設定する必要がある場合があります。詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

## x86\_64bit Linux の互換性ライブラリがない

デフォルトでは、インストール時に、x86\_64 Linux オペレーティング システムに 32 ビットの互換性ライブラリが含まれるべきではありません。CA ControlMinder エンドポイントでは、ライブラリ libstdc++.so.6 が rpm libstdc++ の usr/lib ディレクトリに存在する必要があります。

CA ControlMinder をインストールする前に、このライブラリがエンドポイント上に存在することを確認してください。

## CA ControlMinder をインストールまたはアンインストールすると UNAB が再起動する

UNAB が実行されているエンドポイントから CA ControlMinder をインストールまたはアンインストールすると、UNAB エージェント (uxauthd) が停止され、開始されます。

### CA ControlMinder および UNAB を新しい Solaris ゾーンへ伝達

新しい Solaris ゾーンを設定した場合、ネイティブ オペレーティング システムがパッケージのインストール後の要素を完全に伝達および実行し、ユーザが CA ControlMinder および UNAB を新しいゾーンに伝達する前に、インストール後の手順をいくつか実行する必要があります。

注: 新しいゾーンの正しい設定方法の詳細については、Sun の「[System Administration Guide: Solaris Containers--Resource Management and Solaris Zones](#)」を参照してください。このドキュメントは Sun Microsystems Documentation の Web サイトにあります。

### CA ControlMinder を Solaris 11 にインストールする際の制限事項

Solaris 11 における制限のために、CA ControlMinder パッケージはインストール中に非グローバル ゾーンには追加されません。Solaris ネイティブ パッケージング ツール (pkgadd) を使用して、各ゾーンへ個別に CA ControlMinder をインストールすることをお勧めします。

### UNAB エンドポイント インストールに関する考慮事項

このセクションでは、UNAB エンドポイントのインストール時に考慮する必要がある項目について説明します。

## CA\_LIC をデフォルト以外のディレクトリにインストールすると、エラー メッセージが表示される

Solaris に該当

症状:

デフォルト以外のディレクトリに CA\_LIC をインストールした後、CA ControlMinder および UNAB の Solaris ホストへのインストールを試行しました。そのインストールは正常に完了しましたが、登録処理はエラー メッセージで終了しました。

解決方法:

デフォルト以外のディレクトリへ CA\_LIC コンポーネントをインストールするように指定した場合、たとえば LIC\_INSTALL\_DIR パラメータを /work/CA ディレクトリに指定した場合は、このエラー メッセージが表示されます。この問題を回避するには、パラメータ CASHCOMP=/work/CA を指定し、UNAB をインストールします。

## UNAB SELinux が Red Hat Enterprise Linux 5.8 上で有効な場合に、ユーザ ログインが失敗する

Red Hat Enterprise Linux 5.8 に該当

UNAB SELinux が有効な場合、Active Directory ユーザは Red Hat Enterprise Linux 5.8 にログインできません。

## Solaris 8 および 9 に UNAB をインストールする際の考慮事項

### Solaris 8、Solaris 9 に該当

Solaris 8 および Solaris 9 オペレーティングシステム上で UNAB をインストールするには、インストールパッケージを抽出する前に、以下の手順を完了する必要があります。

1. 一時ディレクトリにインストールパッケージをコピーします。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
zcat _SOLARIS_Ux_PKG_126.tar.Z | tar xof -  
rm -f uxauth/install/depend
```

3. pkgmap ファイルを開き、'1 i depend' から始まる行を見つけます。
4. この行を削除し、ファイルを保存します。

これでパッケージをカスタマイズし、UNAB をインストールできるようになりました。

## UNAB for Linux 390 のリモート管理用に J2SE バージョン 5.0 が必要

Linux s390 および s390x エンドポイントをリモートで管理するには、J2SE バージョン 5.0 以降がエンドポイントにインストールされていることを確認します。リモート管理では、CA ControlMinder エンタープライズ管理を使用して UNAB エンドポイントを管理できます。

**注:** accommon.ini ファイル内の java\_home 環境設定を設定する必要がある場合があります。詳細については、「[実装ガイド](#)」を参照してください。

# 第 8 章: アップグレードに関する留意事項

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[アップグレード元のバージョン \(P. 43\)](#)

[Windows エンドポイントのアップグレードに関する考慮事項 \(P. 43\)](#)

[UNIX エンドポイントのアップグレードに関する考慮事項 \(P. 44\)](#)

## アップグレード元のバージョン

CA ControlMinder エンドポイントを r12.6.03 にアップグレードできるのは、以下のバージョンからです。

- 12.6.02
- 12.6.01
- 12.6
- 12.5.5

以下のバージョンからは、CA ControlMinder エンドポイントを r12.6.03 にアップグレードできません。

- 8.0 SP1 GA

8.0 SP1 GA エンドポイントをアップグレードするには、12.6.03 にアップグレードする前に、8.0 SP1 用の最新の CR をインストールします。

- 5.2 および 5.3

5.2 または 5.3 エンドポイントをアップグレードするには、12.6.03 にアップグレードする前に、8 SP1 用の最新の CR をインストールします。

## Windows エンドポイントのアップグレードに関する考慮事項

このセクションでは、Windows エンドポイント上で CA ControlMinder をアップグレードする際に考慮する必要がある項目について説明します。

## アップグレード時に再起動が必要

r12.0 SP1 またはそれ以降からこのリリースにアップグレードする場合、必ずしもコンピュータを再起動する必要はありません。アップグレード後も、CA ControlMinder は後方互換性を保持します。しかし、コンピュータを再起動するまで、アップグレードは完了しません。また、再起動後でないと、r12.5 の機能は完全にはサポートされません。

r8.0 SP1 または r12.0 のエンドポイントをこのリリースにアップグレードする場合、コンピュータの再起動は必須です。

## データベースへのデフォルト アクセスの変更

seosdb (CA ControlMinder データベース) へのデフォルト アクセスは「none」です。r12.5 SP2 以前では、データベースへのデフォルト アクセスは読み取りでした。

注: CA ControlMinder 内部プロセスはデータベースにフルアクセスできます。また、NT AUTHORITY¥System ユーザはデータベースに読み取りアクセスできます。

## UNIX エンドポイントのアップグレードに関する考慮事項

このセクションでは、UNIX エンドポイント上で CA ControlMinder をアップグレードする際に考慮する必要がある項目について説明します。

### デフォルトのインストール場所

デフォルトのインストール場所は、r12.0 で以下のように変更されています。

`/opt/CA/AccessControl`

## FIPS 140-2 ライブラリのアップグレード

CA ControlMinder の本リリースでは、ETPKI 3.2 の代わりに CAPKI 4.1.2 が使用されます。アップグレードは自動的に実行され、コンピュータ上の ETPKI 3.2 ライブラリは他のコンポーネントで使用されている場合は保持されます。他のコンポーネントで ETPKI 3.2 が使用されているかどうかを判断するために、CAPKI では内部参照カウントが使用されます。このカウントが 0 のとき、ETPKI 3.2 はアップグレード時にアンインストールされます。

## UNIX でのシステム全体の監査モードのアップグレード

SEOS クラスの SYSTEM\_AAUDIT\_MODE プロパティでは、ユーザおよびエンタープライズユーザのデフォルト監査モード（システム全体の監査モード）を指定します。CA ControlMinder r12.5 SP1 以降にアップグレードすると、CA ControlMinder は SYSTEM\_AAUDIT\_MODE プロパティの値を lang.ini ファイルの [newusr] セクションにある DefaultAudit 設定の値に設定します。

注: SYSTEM\_AAUDIT\_MODE プロパティおよび DefaultAudit 設定の両方のデフォルト値は、Failure LoginSuccess LoginFailure です。

## 認証でのリソース グループの所有権の認識

CA ControlMinder では、リソースに対するユーザ認証をチェックするときに、リソース グループの所有権が考慮されます。これは、r12.0 で導入されました。以前のリリースでは、認証プロセスではリソースの所有者のみが考慮されていました。

たとえば、FILE リソースはデフォルトアクセスの none および指定された所有者のいる GFILE リソースのメンバである所有者なしで定義します。CA ControlMinder r12.0 以降では、指定されたグループ所有者にそのファイルの完全なアクセス権が与えられます。以前のリリースでは、誰にもそのファイルのアクセス権が与えられていませんでした。

## 優先度が下げられた syslog メッセージ

以下の syslog メッセージの優先度が、情報に下げられました (ERROR ではなく INFO)。

- CA ControlMinder デーモンが停止します。
- START-UP: CA ControlMinder PID=%d
- SEOS\_load: use\_streams=\$use\_streams unload\_enable=\$unload\_enable
- CA ControlMinder カーネル拡張をロードしています。
- \$prodname のカーネル拡張はすでにロードされています。
- \$SeosBinDir/seosd デーモンを開始しています。 (CA ControlMinder)
- Watchdog を起動しました。
- Watchdog の拡張機能が初期化されました。

# 第 9 章：一般的な考慮事項

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Windows エンドポイントに関する考慮事項 \(P. 47\)](#)

[UNAB に関する考慮事項 \(P. 47\)](#)

## Windows エンドポイントに関する考慮事項

このセクションでは、Windows エンドポイント上で CA ControlMinder を使用する際に考慮すべき事項について、説明します。

### Windows Server 2008 で管理者として実行による CA ControlMinder の開始

Windows Server 2008 に該当

ユーザアカウントコントロール (UAC) オプションが有効になっている場合、コマンドラインオプション (`seload -start`) を使用して CA ControlMinder を開始するには、管理者権限が必要です。RunAs オプションを使用して、コマンドプロンプトを実行し、管理者権限のあるユーザアカウントを指定します。

### アンインストールで CA ライセンス ファイルが削除されない

CA ControlMinder をアンインストールしたとき、CA ライセンス ファイルが削除されません。デフォルトでは、CA ライセンス ファイルは CA\_license ディレクトリ (たとえば、`C:\Program Files\CA\SharedComponents\CA_LIC` など) にあります。

## UNAB に関する考慮事項

このセクションでは、UNAB を使用する際に考慮すべき事項について説明します。

## SELinux が有効な場合に、ログイン時にホーム ディレクトリが作成されない

Linux で該当

症状:

SSH クライアントを使用して Linux ホストにログインすると、SELinux が有効な場合、アカウントのホーム ディレクトリが作成されません。

解決方法:

SSH クライアントを使用してログインを試行すると、ホーム ディレクトリは作成されません。この問題を回避するには、次の操作を行ってください。

1. `password-auth` ファイルを開きます。このファイルは、デフォルトで以下のディレクトリにあります。

```
¥etc¥pam.d¥
```

2. `session` セクションを見つけます。
3. `pam_uxauth` セクションの前に以下の行を追加します。

```
session required pam_makehomedir.so
```

4. ファイルを保存して閉じます。

## パスワード変更の試行が Red Hat Linux 上で失敗する

Red Hat Linux で有効

症状:

パスワードの変更を求められたとき、パスワード変更プロセスが完了した後、ホストでの作業を続行できません。SSH クライアントまたは Telnet を使用してログインすると、この問題が発生します。

解決方法:

この問題を解決するには、アカウントパスワードを変更し、ホストをログアウトしてから、新しいパスワードでログインします。

## 移行後のローカル ユーザ アカウントの無効化

ユーザ アカウントを Active Directory に完全に移行した後、`/etc/passwd` ファイルのアカウント エントリの先頭にアスタリスク (\*) を追加することによって、ローカルの UNIX アカウントを無効にすることができます。

## `unab_refresh_interval` トークンの値は短い間隔に設定しない

UNAB でパフォーマンス上の問題が発生するのを避けるため、`unab_refresh_interval` トークン値を短い間隔に設定しないようにしてください。

## Kerberos `dns_lookup_realm` を True に設定しない

SSO モードに該当

必須でない限り、Kerberos `dns_lookup_realm` の値を `true` に設定しないことをお勧めします。True に設定した場合、Kerberos は UNAB ログインプロセスの実質的な遅延の原因となる、不要な DNS 検索を開始します。

## UNAB ユーザが指定されたパスワード ポリシーに従ってアカウント パスワードを変更できない

UNAB ユーザがアカウント パスワードを変更できない場合、使用するドメイン コントローラのセキュリティ ポリシーで、それらのアカウント パスワードの変更が禁止されていないことを確認します。

## sepass と UNAB エンドポイントの統合

sepass ユーティリティは UNAB と統合されます。この統合によって、CA ControlMinder および UNAB の両方がインストールされているエンドポイント上で、ユーザが自分の Active Directory パスワードを変更することが可能になります。

sepass と UNAB を統合する方法

- seos.ini ファイルで、"change\_pam" トークンの値が **yes** に設定されていることを確認します。このトークンを設定して、sepass では PAM インターフェースを使用してパスワードが変更されるようにします。
- seos.ini ファイルで、"auth\_login" トークンの値が **pam** に設定されていることを確認します。このトークンを設定して、sepass では PAM インターフェースを使用して既存のパスワードが検証されるようにします。

**注:** seos.ini 初期化ファイルのトークンの詳細については、「リファレンスガイド」を参照してください。

## Active Directory アカウントを使用した UNAB へのログイン

以前はローカルホストに存在しなかった Active Directory アカウントを使用して UNAB にログインする場合、以下の手順に従います。

1. UNAB ホストを Active Directory に、以下のように登録します。

```
uxconsole -register
```

2. UNAB を以下のようにアクティブ化します。

```
uxconsole -activate
```

3. UNAB ログイン認可 (ログインポリシー) またはローカルログインポリシー (users.allow、users.deny、groups.allow、groups.deny) を作成して、Active Directory ユーザがログインできるようにします。

## UNAB がインストールされている場合、管理者アカウントを使用して CA ControlMinder for UNIX にログインできない

UNAB がエンドポイントにインストールされている場合、Active Directory の「管理者」アカウントを使用して、UNIX 用 CA ControlMinder エンドポイントにアクセスできません。この問題を回避するには、このアカウント用に `userPrincipleName` を作成します。



# 第 10 章：既知の問題

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストールの既知の問題 \(P. 53\)](#)

[アップグレードの既知の問題 \(P. 56\)](#)

[一般的な既知の問題 \(P. 57\)](#)

## インストールの既知の問題

このセクションでは、CA ControlMinder コンポーネントのインストールの既知の問題について説明します。

### Windows エンドポイントのインストールの既知の問題

このセクションでは、Windows エンドポイントのインストールの既知の問題について説明します。

#### MSI ファイルからインストールしようとする「有効なリソースが見つかりませんでした」というメッセージが表示される

CA ControlMinder をアップグレードする際に、「有効なリソースが見つかりませんでした」というメッセージが表示されます。このメッセージが表示されるのは、現在使用しているメディアと、CA ControlMinder のインストールに使用したメディアとで、MSI ファイルのパスが異なっている場合です。

この問題を回避するには、「MediaPackage」というレジストリ文字列を追加し、CA ControlMinder msi パッケージに対する相対パスを指定します。以下のパスにレジストリ文字列を追加します。

```
HKLM\Software\Classes\Installer\Products\CDAFB228040EC5F40AA08B5E852A6D61\SourceList\Media
```

たとえば、32 ビット Windows オペレーティング システムに CA ControlMinder をインストールする場合、msi ファイルのフルパスは E:\x86\ です。「E:」は、リムーバブルなメディア ドライブです。MediaPackage 値には、値「\x86\」を指定します。

### UNIX エンドポイントのインストールの既知の問題

このセクションでは、UNIX エンドポイントのインストールの既知の問題について説明します。

#### 複数のロケールに対してパッケージをカスタマイズするとき、英語以外のロケール上のネイティブ パッケージのカスタマイズが失敗する

##### 症状:

英語以外のオペレーティング システム上で、複数のロケールに対して CA ControlMinder または UNAB ネイティブ パッケージをカスタマイズすると、カスタマイズプロセスが失敗します。

##### 解決方法:

現在、複数の英語以外のロケールをサポートするように CA ControlMinder および UNAB のネイティブ パッケージをカスタマイズすることはできません。この問題を修正するには、CA サポートに問い合わせ、パッケージのカスタマイズ前に適用する修正を入手します。

#### RPM パッケージの検証でエラーが返される場合がある

RPM パッケージのインストールを検証する場合、検証エラーが返される場合があります。

それらのエラーはインストールした製品の機能に問題があることを示すものではないので、無視しても構いません。

#### クライアント サーバ通信モードの非互換性

`non_ssl` または `all_modes` が設定されたクライアントは、`fips_only` 通信モードが設定されたサーバと通信できません。

#### Linux zSeries の API ライブラリが 32 ビットである

CA ControlMinder で Linux zSeries (s390x) 用に提供している API ライブラリは、32 ビットです。

CA ControlMinder は Linux zSeries (s390x) 用の 64 ビット ライブラリを提供していません。

## HP-UX ではパッチレベルの更新が必要

HP-UX では、CA ControlMinder のインストールを正常に行うには、事前にパッチレベルの更新が必要です。以下の OS パッチを推奨します。

- 11.23 (IA64) - パッチ PHSS\_37492 または OS QPK1123 バンドル (2006 年 9 月以降のもの)
- PA-RISC 上の 11.11 -- "dld\_getenv" をサポートする OS パスまたは OS QPR バンドル (2006 年 12 月以降のもの)
- 11.23 (PA-RISC) - OS QPK バンドル (2006 年 12 月以降のもの)

## 古い /lib64/libc.so.6 ライブラリを使用する場合、PAM が Linux s390x 上で機能しない

ホスト上の /lib64/libc.so.6 ライブラリが、CA ControlMinder PAM ライブラリのコンパイルに使用されたバージョンより古い場合、Linux s390 および s390x 上で PAM は動作しません。

ライブラリのバージョンは、2.3.2 以降である必要があります。

## UNAB エンドポイントのインストールの既知の問題

このセクションでは、UNAB エンドポイントのインストールの既知の問題について説明します。

### CA ControlMinder のインストール時に UNAB が 2 回再起動します

#### IBM AIX で該当

CA ControlMinder を IBM AIX にインストールし、UNAB がすでに実行中の場合、UNAB は 2 回再起動します。この動作は、AIX が追加のカーネルチェックを実行するためです。

CA ControlMinder と UNAB を同じデフォルト以外の場所 [UNAB] にインストールするためにネイティブ インストールがカスタマイズされている場合、アンインストールが失敗します

**AIX および HP-UX で該当**

**症状:**

ネイティブ インストールを使用して CA ControlMinder および UNAB をインストールし、インストール ディレクトリをデフォルトではない場所の同じパスに変更した場合、UNAB のアンインストールが失敗します。

**解決方法:**

CA ControlMinder をアンインストールすると、UNAB インストールが破壊され、失敗します。CA ControlMinder と UNAB の両方が同じディレクトリにインストールされているため、アンインストールが失敗します。ネイティブ インストールをデフォルトではない宛先フォルダへ変更している場合、製品名 (uxauth または UNAB) を宛先パスに連結することをお勧めします。

CA ControlMinderr8.0 SP1 および r12.0 SP1 で UNAB がサポートされない

現在、CA ControlMinderr8.0 SP1 および r12.0 SP1 エンドポイントに UNAB をインストールすることはできません。さらに、UNAB および CA ControlMinder は同一のバージョンまたはサービス パックである必要があります。

## アップグレードの既知の問題

このセクションでは、CA ControlMinder コンポーネントのアップグレードの既知の問題について説明します。

### Windows エンドポイントのアップグレードの既知の問題

このセクションでは、Windows エンドポイントのアップグレードの既知の問題について説明します。

## アップグレード時に「ファイルを変更するための権限が不足」というメッセージが表示される

CA ControlMinder エンドポイントをアップグレードする際に、ファイルを変更するための権限がインストーラに不足していることを伝えるメッセージが表示されたら、メッセージを確認してアップグレードを続行します。

## UNIX エンドポイントのアップグレードの既知の問題

このセクションでは、UNIX エンドポイントのアップグレードの既知の問題について説明します。

### アップグレード後に `seaudit` または `sebuildla` を使用するとアクセス許可の拒否メッセージが表示される

#### AIX に該当

ネイティブ パッケージを使用してアップグレードを行った後に、`seaudit` と `sebuildla` ユーティリティを使用すると、権限拒否エラー メッセージを受信する場合があります。

この問題を回避するには、アップグレード完了時にユーティリティを再度 `Trusted` にします。

### r12.0 以前のバージョンでは暗号化鍵の文字数を 54 文字までにする必要があります

運用する環境に r12.0 以前のバージョンの CA ControlMinder が含まれている場合は、暗号化鍵の文字数を 54 文字までにする必要があります。

## 一般的な既知の問題

このセクションでは、CA ControlMinder コンポーネントの既知の問題について説明します。

### Windows エンドポイントの既知の問題

このセクションでは、CA ControlMinder for Windows の既知の問題について説明します。

## アンインストールしても Data および Log ディレクトリが削除されない

Windows で有効

症状:

システムから CA ControlMinder を削除した後、アンインストールプロセスによって以下のパスから Data および Log ディレクトリが削除されませんでした。

¥ProgramFiles¥CA¥AccessControl¥

解決方法:

アンインストール処理では、Data および Log ディレクトリは削除されません。プロセスの完了後、手動でディレクトリを削除できます。

## Microsoft Internet Explorer 7.0 と CA ControlMinder の互換性の問題

CA ControlMinder との互換性の問題のために、Microsoft Internet Explorer 7.0 が応答を停止する場合があります。この問題を回避するには、Microsoft Internet Explorer 8.0 をインストールするか、以下を行います。

**重要:** この手順を開始する前に、Microsoft ソフトウェアパッチ KB957388 を適用します。このソフトウェアパッチは、Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

1. すべての CA ControlMinder サービスを停止します。
2. コマンドライン ウィンドウを開き、以下のコマンドを実行します。

```
net stop cainstrm
```

3. [ファイル名を指定して実行] コマンドライン ウィンドウから regedit ユーティリティを開きます。

4. 以下のパスに移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSset¥Services¥cainstrm¥parameters
```

5. ExcludeProcess レジストリ エントリ値を変更して、iexplorer.exe ファイルを含めます。

6. コマンドライン ウィンドウから以下のコマンドを実行します。

```
net start cainstrm
```

7. CA ControlMinder サービスを開始します。

## 特権プロセスは、権限がなくとも、レジストリ ツリーの保存およびリストアが可能

Windows Server 2003 以降では、プロセスが特殊な権限 SE\_BACKUP\_NAME および SE\_RESTORE\_NAME を取得すると、CA ControlMinder の権限なしに、レジストリ ツリーを保存、リストアできます。

## x64 Windows 上での FIPS のみモード

x64 Windows 用 CA ControlMinder エンドポイントでは、CAPKI 4.1.2 はサポートされません。しかし、RSA の既知の問題により、FIPS が有効になったモードで CAPKI 4.1.2 を実行すると、著しい通信遅延が発生します。

## selang で実行されるホスト名変更イベントが CA Enterprise Log Manager レポートで不明なイベントと表示される

selang で実行されるホスト名変更イベントが、CA Enterprise Log Manager レポートで不明なイベントとして表示されます。

## UNIX エンドポイントの既知の問題

このセクションでは、CA ControlMinder for UNIX の既知の問題について説明します。

### Solaris 8 上の FTP ログインが失敗します

#### 症状:

Solaris 8 マシン上での AD ユーザの FTP ログインが失敗します。  
530 Login incorrect.  
Login failed.

同じアカウント認証情報はネイティブ ユーザには正しく機能します。

#### 解決方法:

なし Solaris 8 上の ftpd では /etc/shadow および NIS でアカウントの存在を確認します。この制限は、新規の Solaris バージョンの FTP 実装にはありません。

CAWIN インストールに Ncurses が必要です

**Linux 64** ビット サーバに該当

CAWIN を Linux 64 ビット サーバ上にインストールする前に、Ncurses 32 ビットをインストールします。

## serevu デーモンの実行中に失敗したログイン イベントが監査されない

VMware vCenter 4.0 u2 で該当

CA ControlMinder の VMware vCenter バージョン 4.0 u2 へのインストール時に serevu デーモンが実行されていると、以下が発生します。

- 失敗したログイン イベントの LOGIN レコードが監査ファイルに表示されません
- pam\_seos\_failed\_login.log ファイルのサイズが 0

この問題を回避するには、以下の操作を行います。

1. すべての CA ControlMinder デーモンを停止します。
2. 以下のディレクトリに移動します。

```
/etc/pam.d/
```

3. system-auth ファイルを編集して、pam\_seos.so への参照をすべて削除します。例：

```
account required pam_per_user.so /etc/pam.d/login.map
auth required pam_per_user.so /etc/pam.d/login.map
password required pam_per_user.so /etc/pam.d/login.map
session required pam_per_user.so /etc/pam.d/login.map
```

4. system-auth-generic ファイルを編集して、pam\_seos.so への参照を追加します。例：

```
password sufficient pam_seos.so
auth optional pam_seos.so
account optional pam_seos.so
session optional pam_seos.so
```

5. system-auth-local ファイルを編集して、pam\_seos.so への参照を追加します。例：

```
password sufficient pam_seos.so
auth optional pam_seos.so
account optional pam_seos.so
session optional pam_seos.so
```

6. ファイルを保存して閉じます。
7. CA ControlMinder デーモンを開始します。

## SELinux が有効な場合 CA ControlMinder または監査ログによって SSH ログインが監査されない

RedHat Linux Advanced Server 6 で該当

RedHat Linux Advanced Server 6 で、SSH ユーザのログインが CA ControlMinder によって監査されません。これは、SELinux のデフォルト ポリシーでは SSHD の /proc ファイルシステムへのアクセスが許可されないためです。

この問題の回避策として、/opt/CA/AccessControl//bin/sshd\_policy.sh スクリプトを実行して SELinux ポリシー モジュールをロードし、/proc へのアクセスを許可します。

## Linux 上で JBoss JDBC パスワード コンシューマを設定できない

Linux に該当

現在、Linux 上で JBoss JDBC パスワード コンシューマを設定できません。

## CA ControlMinder にログインするには PAM\_login フラグが有効になっていることが必要

AIX に該当

PAM\_login フラグが有効になっていない場合、CA ControlMinder は Active Directory ユーザ アカウントを正しく検出できません。

この問題を回避するには、設定したログインプログラム (LOGINAPPL) で PAM\_login フラグを有効にします。 [pam\_seos] セクションで seos.ini の PamPassUserInfo トークンを 1 に設定して、seosd デーモンが PAM モジュールからログイン リクエストを受け取ることを確認します。

以下のコマンドを使用して、ログインフラグを設定します。

```
er LOGINAPPL SSH loginflags(pamlogin)
```

## デフォルトのシェルが /etc/shells に定義されていないときにユーザ セッションが記録されない

キー ロガーに該当

/etc/shells に定義されていないシェルでユーザがログインすると、CA ControlMinder はユーザ セッションを記録しません。

## PAM がアクティブな場合、FTP および SSH の猶予ログインで segrace が呼び出されない

PAM をアクティブにした場合、FTP および SSH サービスへの猶予ログインを行う segrace は、自動的に呼び出されません。

FTP に関するこの問題を回避するには、FTP サービスの LOGINAPPL レコードで LOGINFLAGS プロパティの値を nograce に変更します。

SSH に関するこの問題を回避するには、PAM から segrace を呼び出しません。代わりに、ユーザまたはオペレーティングシステム起動スクリプトから segrace を呼び出します。

## 猶予期限が終了すると、CA ControlMinder はパスワードをリセットしない

HPUX および AIX で該当

CA ControlMinder エンドポイントへの UNAB のインストールでは、ユーザパスワードの猶予期間が期限切れになった場合に、CA ControlMinder PAM は、アカウントパスワードをリセットするための「sepass」ユーティリティの呼び出しを実行しません。

この問題は、loginflags (pamlogin) を使用するログインアプリケーション (SSH ログイン、rlogin、FTP、Telnet など) に影響します。Solaris ログインは、HPUX および AIX 上の CA ControlMinder ではログインアクションとして認識されません。この問題を回避するには、SSH ログインアプリケーションで loginflags (none) を使用します。

以下のコマンドを実行して、トークンを設定します。

```
er LOGINAPPL SSH loginflags(none)
```

## 一部のプロセスで、Solaris ネットワーク イベントのバイパスが機能しない

Solaris の場合、CA ControlMinder は、CA ControlMinder が起動する前に開始されたプロセスについては、ネットワーク イベント (SPECIALPGM レコードのバイパスの種類 PBN) をバイパスしません。

## Stat インターセプト呼び出しが AIX システムでサポートされない

STAT\_intercept トークンが「1」に設定された stat システム コールにおけるファイルアクセスチェックは AIX システムではサポートされません。

## UNAB の既知の問題

このセクションは、UNAB の既知の問題について説明します。

### UNAB エージェントは信頼される側のドメインへの接続を失いました

#### 症状:

ユーザ チケットが失効する前にドメインセキュリティ ポリシー Kerberos サービス チケットの有効期限が失効するよう設定した後、UNAB エージェント (uxauthd) では信頼される側のドメインへの接続が失われました。

#### 解決方法:

uxauth.ini の tgt\_renew\_lifetime トークン値を Kerberos サービス チケットの最長有効期限よりも小さく設定します。

### 初回ログイン時のパスワード変更が失敗しました。

#### Solaris 10 で該当

ユーザは SSH を使用して、UNAB ホストにログインしようとしています。初回ログイン時にアカウントのパスワードを変更しようとする、パスワード変更操作が失敗します。

### マップされたユーザによる AIX へのログイン試行の失敗がログに記録されない

#### AIX に該当

#### 症状:

マップされたユーザとして、SSH を使用して AIX UNIX ホストへのログインを試行するとき、失敗した試行が uxaudit によってログに記録されません。

#### 解決方法:

ユーザが間違ったパスワードを入力した場合、マップされたユーザが失敗した最初のログイン試行は、Seaudit によってログに記録されません。以降のログイン試行は uxaudit によってログに記録されます。

## HP-UX 上で、次回ログイン時にパスワードの変更が失敗する

### HP-UX に該当

Active Directory で、「ユーザは次回ログイン時にパスワード変更が必要」オプションを選択しました。SSH または Telnet を使用してログインすると、ユーザがログインできないかパスワードを変更できません。

## PAM 設定の変更によりユーザ ログインがブロックされる

### Red Hat Linux 5.0 以上に該当

#### 症状:

UNAB および CA ControlMinder を Red Hat Linux にインストールし、制御フィールドで "value=action" 構文を使用するように PAM 設定ファイルを設定しました。Linux ホストへのログインを試行すると、ログイン動作が拒否されます。

#### 解決方法:

UNAB は、PAM 設定ファイルで制御フィールドの "value=action" 構文をサポートしません。

## 一方向の信頼関係を持つドメイン環境で UNAB を登録解除した後、不正なユーザ ID が表示される

一方向の信頼関係を持つドメイン環境で UNAB を Active Directory から登録解除した後、一方向の信頼関係を持つドメインのユーザ ID 詳細が、表示されるべきではない場合にも表示されます。

## 信頼されているユーザ SSH ログインが AIX で失敗しました

### 症状:

SSH を使用して AIX 5.3 エンドポイントにログインしようとしたのですが、ログインに失敗しました。

### 解決方法:

このエラーは、AIX と SSH のバージョンの一部の組み合わせで発生する、IBM の既知の問題です。この問題は APAR ((Authorized Program Analysis Report) 番号 IV10231 として IBM 開発部門にログ記録されています。

### watchdog\_enabled トークンが No に設定されても uxauthd が開始する

#### 症状:

watchdog\_enabled トークンを no に設定して UNAB を再起動すると、uxauthd が開始されます。

#### 解決方法:

watchdog スクリプトは、最初に uxauthd を開始した後で watchdog\_enabled トークンに行なわれた変更を無視します。登録処理中に `-n` を指定し、トークンに変更を加えて、`uxauthd.sh` スクリプトを別に開始することをお勧めします。

### 試行ログインとしてのローカルアカウントパスワードを使用した監査ログレコード ログイン

#### 症状:

UNAB にログインし、ユーザアカウントがローカルパスワードファイルおよび Active Directory にある場合、監査ログに以下のレコードが表示されます。

```
<audit_record_date_and_time> A LOGIN map3
```

#### 解決方法:

これは UNAB の既知の問題です。監査ログは、P LOGIN ではなく A LOGIN を記録します。

### ログイン エントリが 2 回記録される

#### Linux に該当

UNAB がインストールされているホストに `rlogin` を使用してログインすると、ログインの試行が監査に 2 回表示されます。

## パフォーマンスを向上させるための Microsoft Windows Server 2003 用ホット フィックス

Windows Server 2003 SP1、Windows Server 2003 64 ビットで該当

LDAP\_MATCHING\_RULE\_IN\_CHAIN を使用した拡張検索で LDAP が Active Directory のクエリ結果を返すのに失敗します。

この問題の回避策として、Microsoft Windows 2003 Server 用の最新のサービス パックをインストールするか、wingrp\_update\_login トークンを「no」に設定して、ログイン中の UNAB グループの更新を無効にします。

注: 詳細については、Microsoft ナレッジベース記事 914828 を参照してください。

## Uxpreinstall ユーティリティがホスト名の解決に失敗する

UNAB のインストールした後、および Active Directory への登録前に、uxpreinstall ユーティリティはホスト名解決の検証に失敗します。

この問題を回避するには、-d 引数を使用して、Active Directory ドメイン名を指定します。以下に例を示します。

```
./uxpreinstall -d domain_name
```

## Telnet および rlogin プログラムが監査レコードに表示されない

Linux、HP-UX に該当

UNAB 監査レコードに、telnet および rlogin のログインプログラムが表示されません。Linux では、UNAB 監査レコードに telnet または rlogin の代わりに "remote" と表示されます。HP-UX では、UNAB 監査レコードに telnet または rlogin の代わりに "login" と表示されます。

## uxconsole -register コマンドと -deregister コマンドの間隔

Active Directory に UNAB ホストを登録し、その後登録を解除する場合、ホストの登録を解除する前に、ドメインコントローラ レプリケーションで必要となる時間を待機することをお勧めします。

注: UNAB ホストを登録解除する場合、配布されなかったポリシーは削除されます。

## 新規ドメイン ユーザの最初のログインが失敗する場合がある

### SSH に対して有効

Active Directory でユーザを作成し、新規ユーザがすぐに UNAB エンドポイントへのログインを試行する場合、最初のログインは失敗しますが、それ以降のログインは問題なく行われます。最初のログインが失敗するのは、ユーザがエンドポイントに認識されていないためです。ただし、失敗したログインプロセス中に、`uxauthd` はローカル NSS ストレージをユーザ情報で更新します。それ以降のログインは成功します。これは、ユーザがエンドポイントに認識されるようになったためです。

デフォルトでは、`uxauthd` は NSS ストレージ内のユーザ情報を 1 時間おきに更新します。`uxauthd` が NSS ストレージを更新した後に新規ユーザがエンドポイントへのログインを試行すると、ログインは成功します。

## ログイン サービスが SSO ログインで PAM をバイパスする

SSO ログインでは、ログイン サービスは PAM をバイパスします。ログイン ポリシーは適用されず、監査イベントも生成されません。

## ホストへのログインが成功した後、エラー メッセージが生成される

### Linux、AIX、HP-UX に有効

UNIX PAM フローに制限があるため、UNAB ホストへのログインが成功した後、アカウント認証に失敗したことを示すエラー メッセージが `syslog` ファイルに生成されます。

## sepass でパスワードを変更しようとすると、パスワード不一致のメッセージが表示される

### AIX 5.3 に該当

マップされたユーザが `sepass` を使用して、アカウント パスワードを変更しようとすると、パスワード不一致のエラー メッセージが表示されます。エラー メッセージが表示されても、アカウント パスワードは Active Directory 上で変更されています。

## Active Directory ユーザは Solaris 上でパスワードを変更できない

Sun Solaris のパスワードに関する制限事項により、Active Directory アカウントで UNIX ホストにログインするユーザは、Solaris のパスワードツールを使用してアカウントを変更できません。初回ログイン時にユーザがアカウントパスワードを変更する必要がある場合、ユーザは Solaris 以外のシステムからログインする必要があります。

UNAB が UNIX ホスト上で実行されている場合、以下のコマンドを使用してローカルアカウントのパスワードを変更します。

```
passwd -r files username
```

CA ControlMinder が UNIX ホスト上で実行されている場合、sepass ユーティリティを使用してローカルアカウントのパスワードを変更します。

## Active Directory ユーザの代理実行では監査記録が作成されない

su を使用して Active Directory ユーザを代理実行する場合、代理実行の試行は監査されません。

## sshd プログラム名が SFTP セッションの監査記録に表示される

sftp プログラムを使用し終えたログインセッションの監査記録は、sftp プログラムではなくプログラムフィールド内の sshd デーモンを表示する場合があります。

## イベントビューアの UNAB エントリに空白フィールドが含まれる

Windows イベントビューアに空白フィールドのある UNAB イベントが表示されます。

## エンタープライズ ユーザの FTP SSO ログインが監査されない

Solaris に該当

Kerberized FTP およびテルネットプログラムは PAM スタックをバイパスします。そのため UNAB は、エンタープライズユーザによる FTP およびテルネット SSO ログインを監査しません。

### SSO が有効な UNAB を登録解除しても keytab ファイルからレコードが削除されない

以前に SSO を有効にして登録していた UNAB ホストを登録解除すると、そのコンピュータ オブジェクトは Active Directory から削除されますが、対応するレコードは keytab ファイルから削除されません。その UNAB ホストを再び登録しようとしても、Kerberos チケットは作成されません。

この問題を回避するため、UNAB ホストを登録解除しないようにするか、UNAB ホストにのみ使用される場合は、keytab ファイルを削除することを推奨します。

### HP-UX のパスワードで @ 記号がサポートされない

HP-UX に該当

HP-UX の制限事項により、HP-UX エンドポイント上では、パスワードに @ 記号を使用しないでください。

### 完全修飾ドメイン名による HP-UX へのログインがサポートされていない

HP-UX に該当

HP-UX では、完全修飾ドメイン名（例：user@domain）ではログインできません。

## マニュアルの既知の問題

このセクションでは、CA ControlMinder のマニュアルセットの既知の問題について説明します。

### 「SDK 開発者ガイド」にグラフィクスの代替テキストがない

「SDK 開発者ガイド」のグラフィクスに、代替テキストがありません。「SDK 開発者ガイド」は CA ControlMinder の旧バージョンで最初に翻訳され、CA ControlMinder r12.5 のマニュアルでも、変更なく提供されています。

## PDF マニュアルには Adobe Reader 7.0.7 が必要

PDF 形式の CA ControlMinder マニュアルを参照するには、Adobe Reader 7.0.7 以降をインストールする必要があります。Adobe Reader をコンピュータにインストールしていない場合は、Adobe 社の Web サイトからダウンロードしてインストールしてください。

**注:** Adobe Reader は、HP-UX Itanium (IA64) および Red Hat Linux Itanium IA64 では使用できません。